

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570800237		
法人名	医療法人 隆徳会		
事業所名	グループホーム菜花園		
所在地	宮崎県西都市大字穂北字東原5253-105		
自己評価作成日	令和2年8月20日	評価結果市町村受理日	令和2年11月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaiogkensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	令和2年9月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在は新型コロナウイルス感染拡大予防の為自粛しているが、本来ならば近隣の保育園・小学校の運動会に応援に行ったりと、交流を続けている。園内では、利用者様一人ひとりのペースに合わせ無理強いせず、自宅に居るような居心地の良い雰囲気作りを行っており、スタッフと利用者の信頼関係が保てるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人を母体とするホームであり同系列の福祉施設の一角に位置している。散歩コースに小学校と保育園が隣接しており園児や学童との交流があり、保育園からは毎月園便りも届けられ、またホームから雑巾を提供するなど交流に努めている。管理者と職員は理念である「笑いと笑顔の絶えない毎日の提供」を基に利用者本位の支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で共に考え実践できる理念を提供し、常に目に入る所に開示し、意識付けを行っている。	今年度職員全員で理念を見直して、毎日の申し送りや、会議で日々の支援に生かすよう共有し、実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの感染拡大防止の為、園内からの自粛になり、保育園・小学校との交流、地域とのふれあい広場など、こちらから出向ける様な活動を考えていたが中止になっている。保育園の毎年、雑巾提供は、実践でき、喜んでもらった。	近隣に民家はほとんどない環境の中で、隣接する介護老人保健施設や、散歩コースにある保育所や小学校との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年ならば、地域の方にお越し頂き事業所主催の祭りを通じて、ふれあいの場になり自然と認知症の事も分かってもらえたりするのですが、今年は、自粛のため、ほとんどの行事が出来ていない状態。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年は、2か月に、1回の運営推進会議で、報告、助言を頂き、職員と共有していたが、コロナ感染拡大防止のため、現在は、関係者に状況報告書を郵送している。	定期的に地域の有識者や、家族代表を交えて運営推進会議を開催し、サービス向上に努めている。現在は感染症防止対策のため関係者や家族に状況報告書を郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	昨年は、市町村担当者と連絡を取り合い、密に情報提供など行ってきたが、今年から、担当者も変わり、コロナウイルスの関係で、行事の中止や、お会いする機会がない状態である。	市の担当者の変更や、感染症の影響もあり状況報告書などの郵送や電話のみとなっている。母体法人とも連絡を取り合い連携が図れるように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホーム連絡協議会への研修に参加し身体拘束の勉強会を行っていたが、今年は、コロナの影響で、中止になっている。そのため、園内での基本的な身体拘束の勉強会を行い、周知徹底を行っている。玄関の施錠は、夜勤以外は、開放している。	外部研修の参加や独自の勉強会を実施している。外出自粛の中でパソコンを利用し、スピーチロックなどの研修をホームで行い日々の支援に生かすよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴の際、日常生活の場での入居者の方の異常を確認したり、スピーチロックが発生しないためには、職員に心の余裕を持った介護と職員同士で、気付いた時には、声掛け合うように共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度、利用者が、一人、入居中、その方の事例を通し後見人からの情報を得たり意見を頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が変わり、手続き等を行っていないが、入居前に家族、ご本人による園の見学・説明を行い、納得して頂いた上での、手続き等を行うように心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話連絡・面会時には、状況報告を行い、その際の要望・意見を伺い、職員間で、その内容を共有している。現在は、コロナの影響で、家族と会える機会が少ないので、月のお便りなどを利用し写真を貼付したり、要望などあれば連絡など待機中	家族には電話や面会時に状況報告を行い、意見や要望の出しやすい雰囲気づくりに努めている。また日々の支援の中で利用者の意向の把握に努め、職員で情報の共有を図り支援に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンス並びに自由に発言出来るよう、働きやすい職場づくりを行うためのミーティングを行い共有している。	月に1回の会議や日々の申し送り時に、意見要望も出しやすい雰囲気づくりに努めている。前回の課題目標の浴室の改修や、ガラス越しの面会など職員の意見を反映させるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回の自己申告書・ストレスチェックを記載し、代表者が評価を行い、問題点など個別に相談対応を実施されている。日々の勤務状況等は、上長に連絡を行い把握して頂き、安心して働ける職場づくりを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡協議会に加入し、研修に参加しスキルアップを行っている。また隣接する老健・母体病院での研修、福祉総合センターの会員登録を行い、1年を通じて、研修案内を職員に開示し、すすんで研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会での勉強会や他の研修で、交流や連携を行い、自事業所との比較た、気づきを学ぶことができるが、コロナの影響で、実践出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員は、常に入居者様の日常生活や環境の変化に気を配り、寄り添い、お話しをする時間を大切に、要望や行動からみえてくる心理的なものを把握した場合などは、職員間で、共有し安心して暮らせるように話し合い緩和できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期のアセスメントをしっかりと行い、家族の思いや考えを話し合い、双方の信頼関係を大切にすすめている。面会時や電話の中でも、声掛けなど行い意見交換など要望を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が、まず何を必要しているのか、サービス導入の段階で見極め、専門的提案も含めながら、まず、大切なものから提供を行い、日々の変化に対応出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者様、一人ひとりが、持っている能力、知識を知る事で日常生活の過ごし方が変わってくる。常に尊敬し、足りないところを、お手伝いし、お互いに笑って暮らせるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの影響で、直接お会いして、手を取り合ったりする場面がなくなり、ガラス越しではあるが、お互いが安心されるような対策等、行っている。お便りには、必ず月1回正面写真の貼付。衣類や、消耗品などは、家族に持参したり、関わりを大切にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を頂きながら、これまでの関係が途切れないようにしている。	ご家族の協力を得ながら馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を考慮しながら、日々状況を把握しながら、トラブルが発生すれば、職員が間に入り、座席やレクリエーション時は、孤立しないように利用者同士が楽しく過ごせるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、変わらない対応を心掛け、いつでも、相談に来て下さるような関わり方を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	集団生活の中で、みんなと同じ事をしないといけないと言う観念を排除し、その人らしい暮らし、無理のない生活を提供し、選択肢の提供(今、どうしたい)を聞かせて頂き、職員は、寄り添い、その方の生活の質も大切にできるように努めている。	日々の関わりの中で声をかけ、言葉や表情などから意向の把握に努めている。利用者により寄り添い、本人本位のケアとなるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居当初からアセスメントや聞き取りにて、これまでのサービス利用や経過の把握を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人・家族からの情報収集、スタッフ間の情報共有、日々の記録、申し送りなどを参考に、その方の持っている能力が低下しないよう、また新しい事への挑戦なども踏まえ、今、出来る事、出来ない事を職員は把握し、生活の中に取り入れている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1か月に1回のモニタリングと、ご家族の意向を確認し、ケアプランに反映するようにしている。担当者会議などで関係者と話し合い、介護計画を作成している。	利用者本位の介護計画となるよう、日頃の関わりの中で本人や家族の意向の把握に努めている。関係者と職員全員で現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録、介護実施記録の記入をしスタッフ間で情報共有し、気づきにつながっている。それを参考にケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状況変化やご家族の状況変化に伴い、その時々生まれるニーズに対し、決まり切ったケアの方法だけでなく一時的に一人の方だけに特化したサービスも受けられるよう柔軟な姿勢で取り組んでいる。		

宮崎県西都市 グループホーム「菜花園」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源として、小学校や保育園そして豊かな緑と隣接する介護老人保健施設があり、それらの行事に参加する機会は、多々あるが、コロナの影響で中止しせざるを得ないが、消防、民生委員、理美容院など、状況に応じて、協力の依頼や意見を参考に安全な暮らしが出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院機関を利用する機会が多く、定期受診の利用、また、状況に応じて、本人・家族の希望も受け、同意と納得のもと、他病院の依頼が行えるように支援している。現在、コロナ感染拡大防止のため、入居者様の安全を第一にした行動を行っている。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。受診前後の情報の共有を図り適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師に相談したり情報を聞いたり指示を受ける体制が日頃から出来ており利用者様の状況変化や異変に注意を払い、適切な受診が行えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、退院サマリを直前までの、その方の状態や入院に至るまでの詳細な情報を病院側に必ず口頭と書面で伝え入院途中でも連絡を取り合い、退院時のカンファレンスで、今後の治療方法などを仰ぎ、いつでも連絡できる体制づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合を考慮し、当園は看取りは行っていないことを家族に理解を得ている。急変時に搬送する等の方針も含め説明を行っている。また早い段階から家族の方の意向も踏まえ、今後の特別養護老人ホーム申請なども聞き取りを行っており、当園と家族の方針を共有しながら、支援に取り組んでいる。	利用開始の段階でホームでは看取りや重度化した場合について方針の説明をしている。状況の変化に合わせて家族の意向も踏まえ医療関係者と連携し支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	隣接する介護老人保健施設合同の心配蘇生法なども毎年、消防の方から訓練を行ってきたが、コロナの影響で中止になっている。今後の状況を見極め、当園だけの勉強会も視野にいれている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接する介護老人保健施設合同の避難訓練の参加を行っている。また、当園独自の利用者様と一緒に避難訓練を昼間だけだが職員で訓練を行っている。コロナの影響で、地域との協力体制は築けていないが、介護老人保健施設と消防には、協力体制が、行えている。	隣接する施設と日中の合同訓練など行い、協力体制づくりにも取り組んでいるが、夜間想定訓練が実施されていない。	夜間には職員が少なくなることから定期的に夜間想定訓練を実施し、更に災害対策を強化することに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人おひとりに失礼のないようにスタッフ間で情報交換する場合でも、ご本人の耳に入らないように配慮し、スピーチロックを耳にした場合など、その時やミーティングなどで話し合い、良い方向え、導かれるよに心掛けている。	利用者本人の気持ちに寄り添いさり気ない言葉かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの理解度に合わせた言葉掛けを行っている。自己決定できるまで、待つ時間を設けている。意志表示が難しい方には、表情から見受けられるサインを見逃さないように取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームでの1日の流れは、あるものの、ご本人のペースで過ごされたい方は、ご本人の気の向くままに過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や気候に合わせた衣類選びをスタッフと共に行ったり、1日に何度も着替えられる方には、その方のスタイルやおしゃれをされている事をスタッフ間で把握している。また、髪型や洋服が見える鏡や写真をみて頂き、ほめる言葉掛けも一つの支援に繋がっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合わせた野菜の皮むきや果物を実際に触ったり、臭いを感じとってもらい、行事食など、そこから生まれる会話に繋がる事が多々あり、笑顔で作業される姿は、何でも出来ていた自分に戻られるので職員と一緒に楽しめるようにしている。	野菜の皮むきなど、職員と一緒に食事の準備をするなど、食事が楽しみなものになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合わせた食事状態や量を考慮し提供している。嚥下不良の方には、ミキサー食やトロミ食にしている。栄養バランスは、日々献立に偏りにならないようにし、1日の水分摂取量も記録している。受診日に体重測定を行い、時に先生からの意見確認を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で出来る方は見守りで洗面台に向き歯磨き・義歯洗浄をして頂いてる。出来ない方には、声掛けを行いながら口腔ケアを行っている。洗口液や義歯洗浄剤を活用し清潔保持している。口腔内の不具合時には、歯科の往診を依頼している。		

宮崎県西都市 グループホーム「菜花園」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄状況を把握する事で、不要と思われるパット使用を極力減らせる支援を行っているが、自立で行えない方は、個々の排泄パターンを配慮し時間を決め、誘導し出来る限りパット内での失禁を減らし、排泄を促している。	排せつチェック表を活用し様子を見ながら言葉かけをしている。個々のパターンを把握し、さりげない誘導を心掛け、排せつの自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックシートや申し送りから便秘状況を把握し、薬や便秘薬を使用する前に、乳製品の摂取を行ったり便秘対策を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在、利用者様一人ひとりの希望に添える入浴は、実施出来ていないが、入浴に入る時の声掛けなど工夫を行い、楽しく入って頂き洗体時にも声掛けを行いながら、時間に余裕を持ち、心地よく入浴出来るような支援を行っている。	利用者の希望を聞きながら足浴も取り入れるなど、ゆっくり楽しめる入浴支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣をスタッフが把握しており適度な休息を取ったり、安心して、ゆっくり眠れるような支援を行っている。基本的には各自自由に過ごされたりテレビやラジオを居室で見られたり仮眠を取られたりされておられる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人カルテに服用中の薬剤説明書を添付して、それをスタッフ間で共有し内服変更時には、カルテに記載し申し送り後は状況観察に努めている。また誤薬が無いように、本人の顔を見て名前を呼び、服用して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に本人、家族から生活歴を聞き、その人を知る事でレクリエーション時の塗り絵や、パズル、計算問題など、それぞれに自由な時間を支援している。得意な物を提供すると生き生きとしておられる。全員で何かを成し遂げる事も気分転換の支援に繋がっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一年間を通して、季節に応じたドライブや外食などを計画を立てていたがコロナの影響で、中止になっている。状況を把握しながら、近場の散歩や車椅子を使用し、日光浴などを楽しむことくらいではあるが提供できている。家族や他者との接触は控えさせて頂いている状態である。	日々の状況変化を把握し、情報の共有を図りながら近隣への散歩など日常的な外出支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの入居者様が、預かり金としてスタッフが管理している。外食や買い物に出かける機会が出来れば、ご自分が買った物の支払いが出来る支援を行いたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの電話の依頼や、ご家族からの手紙や電話の取り次ぎは落ち着いて、お話しができるように配慮を行っている。手紙が届いた折には、居室に貼らせて頂きいつでも忘れないでもらえるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂くために壁紙の工夫や日にちが分かるようにカレンダーの設置、入居者様がスムーズに移動できるように無駄な物を排除し、温度調整など、居心地良く過ごせるように工夫を行っている。	共用の空間には利用者と職員が共に作った作品を飾り、ホールにソファ、玄関にベンチを配置するなど、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全員がテレビを見やすいような座席の配置や、隣席同士が、パズルや計算問題など、会話をしながら、共有できるように工夫をしている。気の合った同士が出向き会話なども楽しんだり自由に過ごされるなど座席を提供したり工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご本人が日頃愛用したり使い慣れた物を持ち込んで頂き、ご本人が居心地良く安心してできる空間づくりを行っている。	居室には利用者の作品や家族の写真などが飾られている。使い慣れた家具や椅子などを持ち込み、利用者が安心して過ごせるよう配慮、工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立歩行される方や歩行器を利用される方、動線に合わせ手すりが設置しており、車椅子移動や歩行訓練される方など、出来るだけ床に物を置かず、安全に生活できるように工夫を行っている。		